

(4) 2000年(平成12年) 8月11日(金曜日)

対馬新聞

第3249号

国際ハイウェイプロジェクト

日韓トンネルの近況と今後

ここに一冊の雑誌がある。「日韓トンネル研究」と銘打ったその本には、日韓トンネルについて報じられた新聞や雑誌の記事が百数十点収録されている。

よくも集まったものだと思いきやこれは極一部で、実際にはこの四倍の分量の記事があるらしい。目立たないところで日韓トンネルについての議論は進んでいたようだ。しかし今年五月十六日に韓国の放送公社KBSテレビは日韓トンネル構想について十数分間にわたって詳しく報道した。番組では日韓トンネルの

実現で世界で三番目の共同体が東アジアに誕生する可能性を示唆している。ヨーロッパのECや北米の自由貿易連合の東アジア判である。

かなり前から環日本海経済圏構想や環黄海経済圏構想というものがある。社会主義国家が冷戦の溶解とともに、国境を越えて資本主義国との経済結合を急いでいることを物語っているが、これらはいずれ「東アジア共同体」に集約されていくようだ。韓国では以前から国土を縦横に格子状に貫く高速道路網を整備

中だ。北朝鮮と平和統一された時には朝鮮半島自体がその立地条件からして東アジア発展の機軸となると見ているのである。そのため交通網整備に余年がない。ソウルの近郊では巨大な国際空港の建設も進んでいる。前述の二つの経済圏構想も地理的条件から朝鮮半島を軸に展開するとみている。日韓トンネルはその朝鮮半島を貫いて対馬を経て日本に上陸する。

対馬にコンパスの軸を置いて半径五〇〇キロの円を描くとその圏内におよそ五千万人が住んでいる。国を越えて人と物と情報が行き交うとき対馬は国際的な中継地としての役割をになうかも知れない。